

# 緑化だより

No.123 平成28年12月号



ツルリンドウ

- 季節の花(ヤブコウジ)
- 野鳥の世界(カルガモ)
- 昆虫の話(冬のトノサマバッタ)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ひろしま 緑学 の 森

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)



## 季節の花

### ヤブコウジ

「この雪の消(け)残る時に いざ行かな 山橘の 実てるも見む」

大友家持

万葉集

巻19 : 4226

(この雪がまだらに残る時に さあ行こうではないか 山橘の実の輝くのも見よう)

ヤブコウジは古名 山橘 (ヤマタチバナ)、別名 十両(ジュウリョウ)とも言われます。常緑の低木で、大きくなっても20cm程度です。名前のように山林の木陰の藪に群生し自生しています。地下茎で増え、夏に白い花を咲かせます。晩秋から冬にかけて径5mmの果実をまばらにつけて真っ赤に色づきます。分布は日本、朝鮮半島、中国、台湾です。木々の紅葉も終わる頃、殺風景な雑木林を歩いていると、林縁にヤブコウジの真っ赤な果実に出会うことがあります。思わず「可愛い」の連発。わずか10cmぐらいの低木なのに、目を引き、また存在感もあります。江戸時代の本草学者である貝原益軒は、「花譜」のなかで、ヤブコウジに例えて身分相応に生きることの美しさを教えています。



ヤブコウジ

東洋では正月用に、西洋ではクリスマス用に赤い実が珍重されます。これは冬の時期に花が少ないこともありますが、赤い実は何か幸せをもたらすような気持ちにさせるのでしょうか。正月に松竹梅と組み合わせて、赤い実をつける「万両(マンリョウ)」、「千両(センリョウ)」、「十両(ヤブコウジ)」などを飾る風習は江戸時代の記録に残っています。また、「百両(カラタチバナ)」、「一両(アリドオシ)」を加えた目出度い組み合わせもあり、「お金が有り通す」という縁起担ぎに仕立てたともいわれます。

ヤブコウジ、古名 山橘(ヤマタチバナ)が、万葉の時代から日本人に愛されて、生き続けた植物なのかと思うと感慨深いですね。緑化センターでも林縁で見られます。(上村)

## 野鳥の世界

### カルガモ

カルガモは本州、四国、九州と日本各地に生息している中型のカモです。ガン、カモの仲間は冬鳥というイメージが強いのですが、カルガモは夏でもその姿が見られるため、別名“ナツガモ”とも呼ばれます。

河川敷、休耕田、公園の水ぎわで雑草や雑木林の際に定住する、人にもなつきやすい野鳥です。都会の公園の水際で繁殖したヒナ鳥を



カルガモ



連れ、親鳥が車道を渡る様子がニュースで流れることがあります。バードサンクチュアリ  
のわずかなスペースでの繁殖の記録があり、10羽のヒナ鳥が育ちました。ヒナ鳥は産ま  
れてしばらくすると水に入り、親鳥の声と姿を追うように行動しながら食べ物や危険を習  
得しているようです。一定の距離を保って観察することができるのもこの時期です。丸い  
体に似合わず、水の中では、大きなヒレでスピードもあり、動作も俊敏で上手に身を隠す  
のですが、3週間も過ぎる頃になると、体も大きく、たくましくなります。その頃には親鳥  
からも離れて活動しますが、カラス、トビ、イタチやキツネに狙われるのもこの頃のヒナ鳥  
です。はじめ10羽いた兄弟が少しずつ姿を消してゆき半分くらいになるのが普通のよう  
です。自然界の生き物は、調整しながらバランスを保っています。(吉見)

## 昆虫の話

### 冬の特ノサマバッタ

木々が葉を落とし、野山から虫たちの気配が消える頃、昆虫館にはときどき「冬なのに  
トノサマバッタがいたのだが…」と昆虫相談の電話がかかってくる。本当に冬にトノサ  
マバッタを見つけたならそれはすごい事です。なぜなら寒さの苦手なトノサマバッタは  
冬の期間を土の中で「卵」の状態ですごすからです。

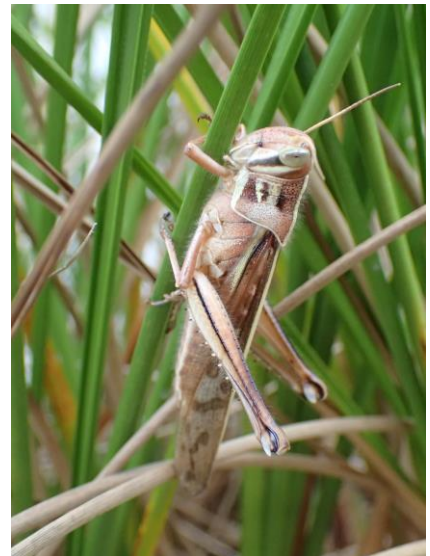
では、「冬の特ノサマバッタ」はいったい何者なのでしょう？その正体はトノサマバッ  
タではなく「ツチイナゴ」というバッタです。

よく見ると枯れ草を思わせる茶色い体には細かい毛がフ  
サフサと生えていて、どこか柔らかい印象を受ける大型  
のバッタです。

ツチイナゴは成虫で越冬する変わり者のバッタです。  
秋に成虫になったツチイナゴは枯れ草の根元などで冬  
を越し、翌年の春に卵を産みます。卵は夏に孵化し、幼  
虫は主にクズやススキなど、荒地の植物の葉を食べて  
育ちます。ツチイナゴの終齢幼虫や成虫はススキの穂が  
大好物です。秋にはおいしそうにススキの穂にかじりつ  
いている姿を見ることができます。

ツチイナゴは、ススキやクズが生えていれば、小さな荒  
れ地にも住むことができ、人の生活に近い場所に生息し  
ています。冬の間枯れ草を片付けようとするとうるいで飛び出してくることや、冬の暖か  
い日には枯れたススキの先にのぼり日向ぼっこをしている姿を見ることがあります。

何も住んでいないような冬の枯れた草原にも、ひっそりと虫たちがその生をつないで  
いるのです。枯れ草の根元をかき分けて春を待つ虫たちの姿を探してみても楽しいかも  
しれません。(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)



ツチイナゴ

## 研修会のご案内

- 12月4日(日) 『クリスマスリース作り』  
自然素材でリースを作ろう  
※要予約(先着30名)・材料費500円  
定員に達したため締切りました。  
10:00~12:00 学習室 集合  
講師: 森林インストラクター  
長井 稔
- 12月10日(土) 『写真コンクール公開審査』  
全応募作品の審査と講評  
10:00~12:00 学習室 集合  
講師: 二科会会員  
宗岡 康昭
- 12月23日(金・祝) 『ミニ門松作り』  
ミニ門松作りに挑戦  
※要予約(先着15名)・材料費1000円  
定員に達したため締切りました。  
10:00~12:00 学習室 集合  
講師: 三良坂竹工房指導員  
諫早 良雄
- 12月24日(土) 『しめ縄作り』  
自作のしめ縄作りに挑戦  
※要予約(先着20名)・材料費700円  
定員に達したため締切りました。  
10:00~12:00 学習室 集合  
講師: 小河内わら工芸会
- 1月6日(金) 『春の七草 学んで試食』  
間違えると危険な七草によく似た植物  
※要予約(先着30名)・無料  
10:00~12:00 学習室 集合  
講師: 緑花文化士  
横山 直江

## ◎ 展示会

場所: レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・ モーモーアート手作り作品展  
~12月25日(日)
- ・ バード&フィッシュカービング作品展  
1月8日(日)~3月12日(日)

(ボード展示)

- ・ 写真コンクール応募作品展  
12月14日(水)~1月29日(日)

## ♪☆お知らせ・ご案内☆♪

12月29日(木)~1月3日(火)は休園します

~森林公園イベント情報~

- ・ ミニ門松を作ろう 12月11日(日)  
中学生以上、往復ハガキ申込、抽選(20組)  
締切り12月1日(木)消印有効
- ・ クリスマスプレゼントを当てよう 12月23日(金・祝)  
小学生以下、当日先着男女各100人  
13:00~管理センター抽選券配布  
14:00~中央広場抽選会
- ・ 新春お年玉プレゼント 1月8日(日)、9日(月・祝)  
小学生以下、当日先着200人  
9:00~管理センター受付、配布  
詳細は、森林公園 H.P 等でご確認ください。



モーモーアート作品展より

このポスターが掲示している場所で耳マークを指し示していただけましたら、以下のことに心がけて対応します。  
・大きな声でお話します。  
・はっきりと口元を見せてお話しします  
・身振り等も交えて対応します  
すべての入場者に対して、安心してご利用いただける施設運営に取り組んでいます。

耳の不自由な方は  
筆談しますので  
お申し出ください



耳の不自由なことを  
表すマークです